

国際関係史学会 (CHIR) 2009 東京大会

開催日：2009年12月5-6日(土・日)

場所：青山学院大学 総合研究所ビルディング 12階 国際会議場

テーマ：「冷戦と地域統合—ヨーロッパとアジアの国際関係史比較」

プログラム

1日目 12月5日(土曜日)

第1部「ヨーロッパとアジアの国際関係史に関する比較研究：冷戦と地域統合」

基調講演 10:00-10:30

- ・渡邊啓貴(在仏日本大使館 公使) 「太平洋と大西洋における西側同盟内での冷戦と国際関係」
- ・小倉和夫(国際交流基金理事長、青山学院大学客員教授) 「日本とヨーロッパ」

1. 欧州統合と冷戦の始まり 10:30-12:00

司会 柴宣弘(東京大学教授)

報告者

- ・アラン・アグラン(パリ・ナンテール大学准教授)
「ヨーロッパ統合と冷戦に直面した元レジスタンスの闘士たち：1943-1956」
- ・川嶋周一(明治大学専任講師)
「1958年9月のフランスのNATO覚書の再検討：世界政策からヨーロッパ政策へ」
- ・倉科一希(国際教養大学准教授)
「アイゼンハワー、ケネディと『第五カ国』問題 —西独核兵器保有に対するアメリカの政策」

昼食 12:00-13:30

2. 冷戦の亢進と欧州・アジア 13:30-15:00

司会 石井修(一橋大学名誉教授)

報告者

- ・アルフレド・カナヴェロ(CHIR事務局長、ミラノ大学教授)
「イタリアと冷戦」
- ・百瀬 宏(津田塾大学名誉教授)
「小国の双方向現実主義と列強政治：日本人研究者から見た戦後フィンランド」
- ・オラヴィ・K・フェルト(フィンランド・オウル大学教授)
「第二次大戦後世界におけるヨーロッパとヨーロッパの一部としてのフィンランド」

3. 冷戦と反体制派の成長 15:00-16:30

司会 押村高(青山学院大学教授)

報告者

- ・ウィリアム・フォッセ(ICU教授)
「ドイツの平和運動と1970年代および1980年代におけるドイツ政治と政治文化に与えたその影響」
- ・下斗米伸夫(法政大学教授)
「東アジア時代における冷戦：1956-1972のソ連・朝鮮民主主義人民共和国間関係を中心に」
- ・コンスタンティン・サルキーソフ(山梨学院大学教授)
「ロシアの反体制派」

討論者 押村高(青山学院大学教授)

レセプション 青学会館 17:00-19:00

2日目 12月6日(日)

第2部「冷戦終焉20年と、ヨーロッパ・アジアの地域再編」

開始挨拶・基調報告 10:00-10:30

総合司会 押村高(青山学院大学教授)
・ロベール・フランク(CHIR会長、パリ大学教授)
「フランス外交と冷戦の終焉」

1. 冷戦終焉20年 — 欧州とアジア 10:30-12:00

司会 森井裕一(東京大学准教授)

報告者

- ・
「ロシアおよび近隣諸国に対するEUの政策：1989-2009」
- ・羽場久美子(青山学院大学教授)
「冷戦終焉20年と中東欧の再編」
- ・舒旻(早稲田大学准教授)
「地域統合におけるリーダーシップ：機能主義的アプローチ」
- ・吉野良子(青山学院大学総合研究所研究員)
「EU統合におけるアイデンティティ構築と他者としての米国：1969-1973」

昼食 12:00-13:30

2. 東アジアにおける地域協力と諸課題 13:30-15:00

司会 首藤もと子(筑波大学教授)

報告者

- ・デビッド・ロウエ(オーストラリア・ディーキン大学教授)
「アジア大西洋におけるコロombo・プランと‘ソフトな’地域主義：1950年代と1960年代におけるオーストラリアとニュージーランドの文化外交」
- ・アルフレッド・C. ロブレス Jr. (デ・ラサール大学教授)
「ASEAN-EU FAT交渉の開始：パラドックスとジレンマ」
- ・ユグー・テルトレ(パリ大学教授)
「冷戦の終焉はアジアの地域主義を促進したか？」

討論者 天児慧(早稲田大学教授)

コーヒーブレイク 15:00-15:30

3. 総括討論 15:30-16:30

共同司会者 渡邊哲貴(在仏日本大使館公使)、羽場久美子(青山学院大学教授)

パネリスト

- ・ロベール・フランク(CHIR会長、パリ大学教授)
- ・
- ・百瀬宏(津田塾大学名誉教授)
- ・アルフレッド・C. ロブレス Jr. (デ・ラサール大学教授)

4. 閉会の辞 16:30

押村高(青山学院大学教授)